

地域をつなぐふれあい学習 ～ ふれあい学習推進委員のみなさんから ～

とちぎ市民活動推進センターくらら 公民館で学べる・遊べる居場所を

栃木公民館と市生涯学習課の職員さんと一緒に、夏休みの子どもの居場所をつくりました！中高生の協力も得て、寺子屋と体験活動を行いました。

環境を学ぶ体験にするため、市民活動団体の皆さんと一緒に草笛体験・エコ工作・魚釣り遊びを企画。魚釣りが好きな私は、栃木市の川の流域にすむ魚たちを表現するため、山里にすむイwana・ヤマメから渡良瀬遊水地にすむ魚まで23種類を集め、繁殖期に鮮やかに色づく（婚姻色）魚や、川と海を行き来して成長する魚がいることも知ってもらえるよう工夫しました。模擬的な魚釣りですが、いろいろな魚が釣れて、子ども・中高生・大人に好評でした！来年3月7日の「くららフェスタ」では、流域魚釣り遊びをさらにパワーアップさせます！



とちぎ学びの夢学園 地域とつながり、学びを広げる



とちぎ学びの夢学園は、幅広い年代、様々な国籍や学習経験をもつ多様な生徒が学ぶ夜間中学です。本校では、教室での学習だけでなく、地域に出て、人と関わりながら学ぶ活動も大切にしています。

小山市にある社会福祉法人「パステル」では、桑の実摘みや職場体験学習をさせていただきました。

生徒からは「福祉施設は困っている人を支える大切な場所だと知った」「働く人の姿を見て、自分も頑張ろうと思った」との声があり、福祉への理解や働くことの大切さを学びました。

また、栃木市の魅力を発見する学習では、地域を歩き、歴史や文化、人々の暮らしにふれ、地域をより身近に感じる事ができました。今後は、発見した栃木市の魅力をまとめ、学校祭で発表する予定です。生徒たちがそれぞれの発見をどのように表現し、伝えてくれるのか楽しみです。



NPO 法人青二才 子どもたちの「声」が場を変える。公民館での小さな実験



ふれあい学習推進委員の下野市チームでは「こうみんかん向上委員会」として、石橋公民館を舞台に子どもの居場所づくりを進めています。私たちが何より大切にしているのは、「ここは自分を受け入れてくれる」という被受容感です。意見箱の設置や掲示板での回答を通じ、子どもたちの声がきちんと反映される場所を目指しています。

「カフェが欲しい」という声を受け、9月には高校生・大学生主体のフリーカフェを実施しました。飲み物を提供しながら、施設への忌憚のない意見をリアルに聞く機会となりました。

自分たちの働きかけが場を変える力になり、一人の大人として認められる。そんな実感をえられる居場所の形を、これからも実験していきます。



下都賀地区家庭教育支援プログラム指導者フォローアップ研修 受容と共感の言葉かけで ニコニコ子育て 親子でスマイル

日時 令和8(2026)年7月22日(水) 会場 城址公園ホール(壬生中央公民館)

研修①では、親の不安や悩みに寄り添った家庭教育支援のため、支援者として大切にしたい「受容」と「共感」の姿勢や言葉かけについて演習をとおして確認しました。その後、研修②では、昨年度栃木県が作成した参加型学習プログラムの中から、「I(アイ)メッセージでニコニコ子育て」というプログラムを体験していただきました。

本研修をとおして、参加者が、保護者支援のあり方や良好な親子関係づくりのための支援について理解を深めるきっかけとなりました。

〈参加者の感想〉

- ・現代の子育て家庭の事情をよく理解して、かける言葉、向けるまなざしを選択することが必要であると感じました。
- ・子どもとの信頼関係を深めるために、I(アイ)メッセージを取り入れることで、親として子どもに気持ちを届けやすくなることを知れました。



人権週間に向けて・・・

1948年12月10日に国際連合総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、12月10日を「世界人権デー」と定めています。日本では、毎年12月4日から10日までの一週間を「人権週間」として、私たち一人一人が人権について考え、互いの人権を尊重する意識を高めるため、様々な啓発活動が全国各地で行われています。

本県では、「ヒューマンフェスタとちぎ2026」が令和8(2026)年12月5日(土)に、ライトキューブ宇都宮にて開催されます。

また、下都賀地区視聴覚ライブラリー(栃木図書館内 ☎0282-22-3542)では、人権に関する映像資料を下都賀管内に無料で貸し出しています。是非、授業や研修等で御活用ください！

「ふれあい学習」は、子どもを核とした幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を指します。ふれあい学習を通して、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもの「生きる力」を育むとともに、家庭と地域の教育力の向上を目指します。

